

組合に相談しよう

不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…

練馬支部 03-3825-5522



子育て中の母親を代表して訴える丹野さん



この日の平成つつじ公園は「戦争法NO!」の黄色で埋め尽くされました



2000万人署名に積極的に署名する帰宅途中の高校生



署名後も、平和について大いに対話をしました。主婦や学生、若い人の関心の高さが目立ちました

けんせつ北部

購読料は組合費に
含まれています。
定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区池袋5-22-15
板橋 (3963) 5325
練馬 (3825) 5522
豊島 (3986) 2471
北 (3902) 7121
発行人 代表者 佐藤 広平
発行日1日、9日、17日、25日

戦争法NO! ねりま集会&パレードPart3 2000万人署名一斉アクションも実施

3月5日、「戦争法NO!・ねりま集会&パレードPart3」が平成つつじ公園で開催されました。広範な区民や団体から約1000人（土建155人）が結集、昨年行われた2回の集会同様、今回も熱気あふれる大集会となりました。

集会では、各団体の代表や市民からの平和に対する強い訴えがされました。「安保関連法に反対するママの会@東京」から、「子育てをする母親として『誰のこどもも殺させない』と言い続ける」。学生団体SEAL D's（シールズ）からは、「わたしの母親は、私が高校生のとき亡くなつた、人が死ぬということがどんなに悲しいことか」その時思い知られた。もうこれ以上人が死ぬのは見たくない。平和のデモに参加することは、とと同じ。私たち一人ひとりが動けば政治は変わること」とのスピーチがありました。

集会前には、超党派の区議会議員による宣伝行動も実施され、パレード行進では「戦争法廃止を求める超党派」の隊列もできました。前回同様、練馬駅周辺をパレード行進。イメージジカラの黄色を身につけてきました。

前回同様、練馬駅周辺をパレード行進。イメージジカラの黄色を身につけてきました。前回同様、練馬駅周辺をパレード行進。イメージジカラの黄色を身につけてきました。

また、集会に先立つ2月16日に、「2000万人署名一斉アクション」を実施。練馬区のすべての駅（19駅）周辺と近隣

駅周辺を行きかう人たちに平和アピールしました。

2駅の計21駅で宣伝行動を取り組み、38団体・グループから合計306人が参加する大宣伝行動を繰り広げました。戦争法の廃止を求める声は、ますます区民に広がってきています。

これまで、多くの団体が「戦争法NO!」のプラカードを持ちながら行進で「戦争法廃止を求める超党派」の隊列もできました。前回同様、練馬駅周辺をパレード行進。イメージジカラの黄色を身につけてきました。

また、集会に先立つ2月16日に、「2000万人署名一斉アクション」を実施。練馬区のすべての駅（19駅）周辺と近隣

同一労働同一賃金

こども食堂

◆介護のプロは仕事をどうどちらをされているのか。労働組合の介護離職に関する組合員アンケートから見てみたい。



1回など定期的に実施しています。子どもの貧困が深刻化するにつれて、職場の方への負担をかけてしまう。休みや変更などが続くと負い目が出ます。それならば昨年、派遣法「改正」で均等待遇原則の明記になりました。政府は1月、この実現を突然言い出しました。それならば昨年、派遣法「改正」で均等待遇原則の明記になぜ強く反対したのか?今年7月におこなわれる参議院議員選挙前の単一投票で、子ども食堂となる人気取りではないかと疑われています。

時のことば

1回など定期的に実施しています。子どもの貧困が深刻化するにつれて、職場の方への負担をかけてしまう。休みや変更などが続くと負い目が出ます。それならば昨年、派遣法「改正」で均等待遇原則の明記になぜ強く反対したのか?今年7月におこなわれる参議院議員選挙前の単一投票で、子ども食堂となる人気取りではないかと疑われています。

1回など定期的に実施しています。子どもの貧困が深刻化するにつれて、職場の方への負担をかけてしまう。休みや変更などが続くと負い目が出ます。それならば昨年、派遣法「改正」で均等待遇原則の明記になぜ強く反対したのか?今年7月におこなわれる参議院議員選挙前の単一投票で、子ども食堂となる人気取りではないかと疑われています。

ねりま大根

◆介護のプロは仕事をどうどちらをされているのか。労働組合の介護離職に関する組合員アンケートから見てみたい。

1回など定期的に実施しています。子どもの貧困が深刻化するにつれて、職場の方への負担をかけてしまう。休みや変更などが続くと負い目が出ます。それならば昨年、派遣法「改正」で均等待遇原則の明記になぜ強く反対したのか?今年7月におこなわれる参議院議員選挙前の単一投票で、子ども食堂となる人気取りではないかと疑われています。

区との災害協定の締結を目指して チームNAMAZU 分会防災リーダー会議



2月24日、練馬支部会館にてチーム「NAMAZU」防災リーダー会議が開催。23分会から35人が参加しました。

昨年度実施した「第一回防災学習&訓練」(5月)、「住宅デー」での各分会の防災企画のとりくみ(6月)、「練馬の地域防災を考えるシンポジウム」(11月)など、これら「NAMAZU」の活動によって、「区議会」

の運動の重きなどについて活発に討論。(1)練馬区

で活動する方

3. 13重税反対練馬区民集会 練馬区内2会場で開催



雨の降りしきる中、行進する土建の仲間たち

集団申告の意義の理解については、定着しつつあります。が、消費税10%を阻止するために、「庶民増税・消費税増税反対」の運動を仲間の団結でさらにすすめいく必要があります。改悪された国税通則法、中小業者の税務行政の監視を強め、納税者の権利を守り拡充していきましょう。

「3・13重税反対全国統一行動」は、平和で安心して働き、生きることを願う組合・団体・自営業者などが重税反対の一意で団結して開始されました。

重税反対、自主申告権への不当な干渉をさせないという目的で1970年からずっと続いている。毎年、全国約600

「消費税10%増税阻止」を掲げ参加者全体で意思統一。集会後は税務署に向かってのパレード行

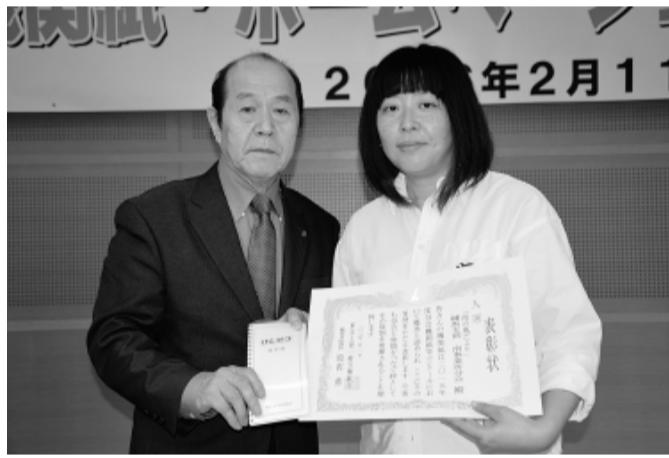
進。その後、参加者による申告納税制度・自主申告権を守るための集団申告を行いました。

今日は気温も非常に低く、雨も降っていたにもかかわらず、例年より多い255人(土建144人)が参加、そうした中、組合の仲間たちはパレードで沢山のプラカードなどを持ち、「消費税の増税は許さない・弱者を苦しめる増税反対」と強く街中で訴えました。

東京土建本部教育宣伝部主催の機関紙コンクールの授賞式が2月11日開催されました。分会新聞と支部の機関紙、それから本部のけんせつ部からは、主婦の会を含め、多くの分会新聞が賞を受賞しました。

おめでとう

東京土建本部教宣部主催 機関紙コンクール入賞



創刊号が入賞。南事業所分会「南の風だより」原沢本部教宣部長から表彰を受ける畠澤さん(右)

当日は、授賞式と講評を受けたのち、飲食を行なった交流会が行われ、受賞した分会の新規作成者はもちろん、普段記事を寄せてくれている分会の仲間と交流を深めました。

新聞編集は私の原動力 田山徳子(教宣部担当執行委員)

田さんの記事が入選。までははじめて新聞発行を担当した仲間が制作し、そのほかにも支部機関紙の記事賞には、アスベト疾患にかかり、病気と闘いながら大変困難な労災認定を勝ち取った園

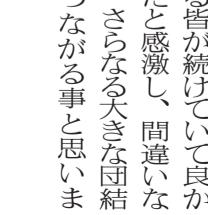
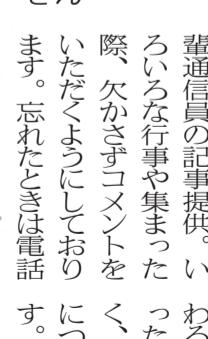
田山徳子(教宣部担当執行委員)

田さん(桜台分会)が写真賞を受賞しました。

日本機関紙協会主催の 全国新年号コンクールで 「菜の花」(石神井分会主婦の会) が優秀賞を受賞



受賞した田山さん



新聞の編集に関わって早11年。お世話になつてばかりの組合活動に、自分でできるお手伝いをと、勉強のつもりで引き受けました。これが私の人生観が変わる転機となりました。

「菜の花」の編集めぐしているのは、まず紙面を埋めて毎月発行する事です。軸になるのは先輩通信員の記事提供。いろいろな行事や集まつた際、欠かさずコメントをいたくよくにしておりました。忘れたときは電話

取材で。もちろん写真もこまめに残します。大きな活動やイベントがない時は逆にチャンスと考え、「何かやりましょう」とこちらから声がけをします。また些細なことと

思えることもピックアップして取り上げる試みもしています。こうしたことが元来見知りで、世間話が苦手だった私にとっては結構楽しく、今までは何事も前向きに考える気気がします。

今回こうした活動が評価されたことは、編集に関わる皆が続けていて良かっただと感激し、間違いない

く、さらなる大きな団結につながる事だと思います。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

自民党が16年度の予算要求で練馬区に対し「練馬建設協議会(土建と建設ユニオンで構成)と練馬区の災害協定の締結」を要請するなど変化が生まっています。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

防災リーダーが中心になつて倒壊家屋からの救出訓練にとりくむこと(2)現場でも役に立つ普通救助訓練リーダーが中心になつて倒壊家屋からの救出訓練にとりくむこと(2)現

動を支える分会防災リーダー会議を年4回程度開催するなどの具体的な方針が確認されました。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

立防災学習センターの協力を得て5月に実施する予定の「第2回防災学習&訓練」に向けて、分会ユニアンド構成)と練馬区との災害協定の締結を要請するなど変化が生まっています。

アスカ村方

スーパーボウリング大会



見事、団体優勝を果たした早宮分会のみなさん

後継者対策部主催『分会対抗スーパーボウリング大会』が、3月6日の日曜日、池袋口サボルにて開催されました。当時は18分会（昨年比2分会増）から合計23チームがエントリー、競技を見守る応援団を含め180人で会場は大賑わい。分会の仲間同士、チームを形成、投球の結果ごとにチームが盛り上がり、悔しがったりしながらプレーしました。



ボウリングブーム世代はやはり強かった

秋葉忠利さんが講演、「被爆者が体験を語ることが真の核の抑止力となる」と述べました。核爆絶が不可避であることを世界の人々に気付かせることが重要だとして、「『被爆者の生存中』という期限で核爆絶を現実的なレベルの話として語つてくことが必要。原爆ビキニ被災を体験した日本がそのリーダーシップを発揮しよう」と提案しました。

「我が国の主張を米国や他の代弁者と非難する國もあつた」と政府の対応を批判。「核の軍事利用も平和利用も紙一重。あらゆる核廃絶のため力を結集しよう」と呼び掛けました。

また、元広島市長の武藤類子さんは、「國の行う帰還政策はどうございました。電も、同じ『核』と同じカシパを寄せていただき、おおびぎざいました。

仲間の「生の声」で動かそう

練馬支部PALねりま第10回総会

2月28日、76人のPAL会員と家族が集まり、木更津のホテル三日月竜宮城にて、第10回PALねりま総会が行われました。



新たに会長に選出された住友さん

当日は、2台のバスで現地まで移動。移動中のバスの車内では、建退共（建設職人の退職金制度）についてDVD活用しての学習会を行いました。

そして総会では、本部PAL10周年を記念して発行された「10年のあゆみ」について鎌田前本部

PAL会長より特別報告がされ、それを受けた若い会員から前向きな質問、意見が多く寄せられ、総会議案をさらに補強する形になりました。総会の最後に、総括と方針、役員改選がまとめて承認され、新会長に住友光一さんが選出、小岩比呂也



10年という節目を迎えた今回の総会に、76人が参加



景品ゲットで大盛り上がりのじゃんけん大会

さんが新たに副会長（支部代表者）へ就任することになりました。そして当日同行した家族と一緒に、別ブロックで、イチゴ狩りやブーツ・温泉を満喫。総会終了後は全員が合流し、大交流会となりました。交流会では小岩副会長（支部代表者）が「じゃんけん大会」で盛り上げ、豪華景品を獲得した子供たちはガツツボーズで喜びをあらわにし、会場を天気に盛り上げました。

仲間の「生の声」こそが現場を変え、企業を変える、そして建設業界そのものを動かします。あなたも是非ご参加下さい。

PALねりまは、春と秋に行う大手企業交渉を成功させるため、4月14日にゼネコン・ハウスメークー・パワービルダーの現場で働く仲間を集めて支部従事者会議を開催する予定です。

仲間の「生の声」こそが現場を変え、企業を変え、そして建設業界そのものを動かします。あなたも是非ご参加下さい。



核廃絶へ市民の力の結集を3・1ビキニデー!

る場所に帰つて暮らせること。自立を美名とした被災者の切り捨てが進んでいる」と報告。「市民の世論が公正で開かれた裁判を作ること」と話し、原発訴訟への連帯・支援を呼び掛けました。

「人類と核は共存できないことを強く世界に訴え、核兵器廃絶と脱原発に向けて一層運動を強化することを確認しました」。

集会アピールでは、「全体会員や分科会、墓参行進等を通じて、ビキニ環礁での水爆実験について知らなかつた部分を学ぶことができ、新たな『怒り』を覚えた。また、奈良書記を代表派遣。東京土建練馬支部からは、寺井副委員長と

秋葉忠利さんが講演、「被爆者が体験を語ることが真の核の抑止力となる」と述べました。核爆絶が不可避であることを世界の人々に気付かせることが重要だとして、「『被爆者の生存中』という期限で核爆絶を現実的なレベルの話として語つてくことが必要。原爆ビキニ被災を体験した日本がそのリーダーシップを発揮しよう」と提案しました。

さらに福島原発事故の報告がありました。核兵器も原子力発電も、同じ「核」と同じカンパを寄せていただけましたが、皆さんの熱い想いを感じることができ、皆の方々と交流ができる方となりました。核兵器も原子力発電も、同じ「核」と同じ

